

# 2021年度 大学入学共通テスト 世界史Bの分析

世界史

学校法人 河合塾 世界史講師 井上 徳子

## 1 はじめに

2021年度は共通テスト元年であった。疫病や改ざんというテーマが大きく取りあげられたほか、キャッシュレス決済への言及や、会話文の多用など、過去と現在のつながりを強調した試行調査の方向性を引き継ぐ内容であった。本年度はコロナ禍に伴う休校で学習の遅れが心配な受験生への対応として第2日程が設けられたが、両日程の共通テストとも同様の特徴が見られたため、多くの受験生が受験した第1日程を中心に（第1日程 85,690人、第2日程 305人）、以下の分析を行う\*。

## 2 センター試験との違いが見られなかった点

平均点は第1日程が63.49点であり、2020年度センター試験の62.97点と大きく変わっていない。出題範囲（前近代と近現代の比率や戦後史からの出題数）・出題分野（アジア・アフリカ史と欧米史の比率や文化史からの出題数）も大きく変わっていない。

## 3 センター試験から変化した点

小問数は減少したが（センター試験 36問、本年度第1日程 34問・第2日程 33問）、問題の分量は増加している（白紙を除くページ数はセンター試験 2020年度 24ページ、本年度第1日程 30ページ）。増加の理由の一つはすべての大問で資料文や会話文が組み込まれていることである。

これは、問題形式の変化につながっており、センター試験で主流だった4文正誤問題は激減し（2020年は36問中27問）、資料文の空欄補充問題とその解答に関連する文章選択問題の組み合わせや、資料文に関連する知識問題と資料文の読み取り問題の組み合わせなど、資料文の読み取りと知識問題をからめたさまざまな組み合わせ問題が出題された。

次は今年度の典型的な問題の一つである。

### ■例題1 2021年度共通テスト第1日程：第1問 問4

問4 上の文章（筆者が割愛）中で、ブロックが、訪問した研究者に助言する際に、前提としたと思われる歴史上の出来事あ・いと、文書資料についてのブロックの説明X～Zとの組合せとして正しいものを、下の①～⑥のうちから一つ選べ。

前提としたと思われる歴史上の出来事

- あ 国民議会が、教会財産を没収（国有化）した。
- い 総裁政府が共和政の成立を宣言し、国王が処刑された。

文書資料についてのブロックの説明

- X 村の歴史を書くために利用できる主な資料は、村の領主の資料ではなく、農村共同体の資料である。
- Y 資料がよりよく保管されている可能性があるのは、村を支配していた領主が教会である場合ではなく、俗人である場合である。
- Z 研究者が利用できる形で資料が保管されている可能性がより高いのは、村を支配していた俗人領主が、亡命しなかった場合ではなく、亡命した場合である。

- ① あ—X      ② あ—Y      ③ あ—Z
- ④ い—X      ⑤ い—Y      ⑥ い—Z

あ・いは、資料文（歴史家マルク＝ブロックが著した『歴史のための弁明—歴史家の仕事』の一節）から「1789年以前」という部分を読み取りあと判断するが、いが史実に反するため、この問題については資料文を読まなくても解答できる。しかし、X～Zの正誤判定は資料文を読み取る必要がある。今回の共通テストは、

- ・資料から正しく読み取る力
- ・読み取った情報と学習によって習得している知識を正しく結びつける力
- ・読み取った情報と習得している知識を結びつけたうえで、正しく推論する力

が必要であった。なお、2016年2月に公表されたサンプル問題や、2018年11月に実施された第1回試行調

\*第1日程は1/16、第2日程は1/30に実施。

査にあった、正しく判断・推論するため必要な情報を選択する力を問う問題は今回はなかった。

## 4 得点差がついた問題

では、今回受験生が苦しんだのは、新たに打ち出された資料の読み取りかといえ、案外そうではないようである。河合塾が集めたデータで全体的に正答率が低かった問題は、次の問題である。

### ■例題2 2021年度共通テスト第1日程：第5問 問5

問5 上の会話文中の空欄  オ  について述べた文として正しいものを、次の①～④のうちから一つ選べ。  33

- ① 寇謙之によって、教団が作られた。
- ② 王守仁によって批判された。
- ③ 義浄らが持ち帰った経典が、翻訳された。
- ④ 王重陽によって、革新が唱えられた。

該当する会話は、「(1866年に大院君が碑文を作った) 同じ時期には、朝鮮の知識人たちの間で「衛正斥邪」という思想が広がりました。衛るべき『正』とは  オ のことであり、斥けるべき『邪』とはキリスト教とそれを信仰する欧米列強を指しています」[14世紀末の建国以来、朝鮮が重んじた  オ を正しい教えとし、欧米列強が信仰するキリスト教を邪教と呼んだわけです]であり、少なくとも2つめの  オ から朱子学が入ると判断して②を選ぶ必要があるが、①③④の選択者が多く、誤答のうち④の選択者が一番多かった(「革新」という表現に引張られたようである)。帝国書院『新詳 世界史B』(以下、教科書)は、朝鮮が「朱子学を導入し」(p.124) たことに言及したうえで、「朝鮮の動向と日清戦争」と題して、1863年の高宗即位後に実権を握った父大院君の政権が、東学を弾圧しカトリックを迫害したことについて触れ、「これは朱子学を正統の教えとして重んじる立場の表れであり、排外的な政策にもつながった」(p.226) と説明する。教科書本文にもとづく丁寧な学習が必要だといえる。このほか正答率が低かった問題は、第5問 問6、第5問 問3、第3問 問8などである。第3問 問8の遼(契丹)から宋への亡命者の手紙が改ざんされて掲載された図書の名称と、改ざんの意図との組み合わせ問題は、資料文の読み違いを含む①③⑤を選択した者は少数で、多くの受験生がその図書が何なのかで迷っていた。結局、世界史の正確な知識の有無で点差がついている。センター試験時代から

そうであったが、今回とりわけ文化史で点差がついた。

現役生と高卒生で一番差がついたのは第5問 問6の、19世紀朝鮮の時代整序問題である。「壬午軍乱」といった用語を使わず、「壬午の年に、軍隊による反乱が起こった」など内容で問うていたこと、3つのできごとの時期が接近していたことから差がついたと考えられるが、教科書は用語をカッコの中に入れることで、できごとの経緯や因果関係をしっかり理解させるよう工夫がされている(p.227)。やはり教科書を丁寧に理解する学習が必要である。そうすれば、3つのできごとが接近していても因果関係を追えば解くことができる。この問題は暗記問題ではない。このほか現卒生で差がついた問題は、センター型4文正誤の第3問 問3・第1問 問2や、第4問 問8、第5問 問3で、第4問 問8は、ベンガル分割令の内容がわかっているかどうかで差がついていた。

## 5 展望

今回、グラフ問題・地図問題はセンター試験型であり、試行調査のような図版自体を選ぶ問題はなかったが、今後、さまざまな問題形式が出題される可能性は高い。図版・表・グラフ・地図を含めた教科書の徹底的な利用が望まれる。例えば、第2日程第5問 問5の図版は、教科書p.222「②イギリス人によって描かれた風刺画(1793年ごろ)」とまったく同じであり、そのキャプションに目を通していれば、問題を解く際に有利であったことは、学習を進めるうえのヒントになるだろう。

この3月には共通テスト「歴史総合」のサンプル問題が公表され、「日本史探究」または「世界史探究」と組み合わせた『歴史総合、日本史探究』『歴史総合、世界史探究』と、公民と組み合わせた『地理総合、歴史総合、公共』の3科目での出題が発表された。サンプル問題は、図版・グラフ・文献など諸資料を多用しており、今年度共通テスト世界史Bと類似しているが、内容は世界の歴史と日本の歴史の相互関係を強く意識した問題で、世界史Bの知識だけでは解けない問題があり、当たり前だが「歴史総合」の履修を前提としている。例えば、第2問では問2でオスマン帝国憲法(ミドハト憲法)制定と大日本帝国憲法制定の共通する背景を、問4でフィヒテ『ドイツ国民に告ぐ』と森有礼の1887年閣議提案に共通する意図を問うており、地域や国を超えた横軸の理解が必須となる。「歴史総合」の教科書を十分活用し、学習指導要領が求める「歴史総合」のあり方に沿った授業が必要だろう。